

小樽ゆねすこ



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



小樽ユネスコ協会

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

(ユネスコ憲章前文より)



UNESCO国際交流の集い



ユネスコ世界文庫贈呈式

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



小樽市能楽堂

小樽ユネスコ協会会長 丸田 謙二郎

1926年岡崎謙氏が自宅邸内に建築した能舞台は、1954年小樽市に寄贈され、1961年公会堂の移設に伴って現在地に移されました。その後、能に親しむ会や、その後を引き継いだ現在の「旧岡崎家能舞台を生かす会(会長三ツ江匡弘氏)」によって活用されています。

さて、ユネスコは教育、科学、文化の振興を通じて、戦争の悲劇を繰り返さないとの理念により設立の意義を定めたユネスコ憲章の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」との文言があり、設立の目的とその精神を顕著に表しています。文化については、「文化の多様性の保護および文明間対話の促進」などを定めています。それに基づき、①「世界遺産」(World Heritage)、②「無形文化遺産」(Intangible Cultural Heritage)、③「世界記憶遺産」(Memory of the World)などの登録と保護、保全する事業を実施しています。現在①は世界981件/日本17件、②は世界274件/日本22件、③は世界299件/日本3件です。日本の重要無形文化財である能楽は、ユネスコの無形文化遺産として2001年条約発効と同時に登録されたのです。

ところで、文化とは人間が自然に手を加えて形成してきた成果のことと言われます。そして平和でなければ生まれないものです。文化と平和は表裏一体と言えるでしょう。小樽が誇るべきこの文化遺産-岡崎家能舞台-を護り、育んでいくことは誠に大切なことと思うのです。

2013年度ユネスコ国際交流の集い

国際交流委員会委員 星 功

小樽ユネスコ協会主催の「国際交流の集いー英語できいて英語で話そうー」は、7月21日(土)、小樽市公会堂に於いて開催されました。

私は司会者として初参加させていただきました。この集いは小樽市教育委員会が後援し、小樽市の中高校生、小樽ユネスコ協会会員、小樽商大留学生、小樽市国際英語交流会の方々と共に、英語だけでなく他の国の習慣・文化に接し、ゲーム等を通して楽しい時間を過ごしながらい文化を理解し、究極的には国際平和に貢献する人間性の養成の機会であると言っても過言ではありません。

特に今回の交流会は小樽市在住の外国人による日本の印象、日本人、日本文化等に関する意見をプログラムに取り入れる事によって、更に充実した集いとなりました。

又昨今は、日本の英語教育に関し、文部科学省が現行の小学校5・6年の英語カリキュラムを3・4年に充当し、5・6年には更に充実したプログラムの開発に乗り出し、日本の英語教育の目的は大きく変わりつつありますが、究極の目的は「国際場で有効な英語力の充実」である事は疑いありません。

小樽ユネスコ協会はこれまでも、小樽市や近郊の地域社会の英語教育振興にささやかながら貢献してきましたが、この国際交流の集いを継続することによって、国際語としての英語の重要性、日

本の英語教育の状況そしてあるべき日本の英語教育の将来に寄与していきたいとの見解を持っております。



ゲームで盛り上がる！



英語で自己紹介、拍手！

ユネスコ英語講座

日時 7月17日～8月7日
(毎水曜日・全4講座)
会場 生涯学習プラザ
後援 小樽市教育委員会
講師 丸田謙二郎会長

「小学生からの英語を考える大人向け英語の基礎のキソ」というテーマで、対象を、英語に挑戦し直したい人・小学校5・6年生の必修英語に関心ある人・英語の学ばせ方に興味ある人などとし、中学英語の復習ながら大人向けの内容にしました。

PR不足もあり、参加者は2名にとどまりましたが、2名とも全日程出席して熱心に受講してくれました。

文科省は2020年までに小学校3・4年生も英語を必修にして評価もすると発表しました。生徒、保護者、そして小学校自体、今後共戸惑うのではとされます。小樽ユネスコ協会としても可能な限り協力を惜しむものではありません。

第39回ユネスコ英語祭を終えて

英語委員長 吉田道夫

恒例の小樽ユネスコ英語祭は、出場者延べ46名と特別スピーチ3名の参加を得て、10月27日小樽市公会堂において実施いたしました。

今回は10月開催となり、当日、市教委主催の文化行事とも重なったため色々危惧されましたが、観客がやや少なめの他大きな影響もなく、盛会裏に終了することができました。しかし、行事のダブリはできる限り避けるようにしたいと思います。

さて、今年の英語祭を振り返ってみますと、出場校数は例年より若干増えたものの、1校あたりの出場者数が1、2名と少なかったこと（ただし銭函中からは9名の参加あり）、歌・暗踊・朗読・スピーチなどバランスよく参加者があったことが特徴的で、内容的にも、ダンスを組み合わせたりギターを弾きながらの英語の歌や、紙芝居・絵本を用いたものなど、多彩なパフォーマンスがありました。

発表態度や英語の発音なども年々レベルの向上がみられ、主催者として大変嬉しく思いました。

また、例年岩内町より幼稚園児や小学校低学年の出場があり、他後志管内からは、黒松内・古平の中学生が参加してくれました。70代の後半にな

る女性が毎年参加してくれますが、今回は朗読に挑戦、努力の成果を発表していたのも立派でした。

今までも事業運営にあたっては経費節約を考慮してきたのですが、今回不本意ながら参加費を徴収しました。

参加者数減も予想されましたが、例年並みの出場者数があり、英語学習の成果発表の場としての定着に一定の意義を確認した感があります。

特別スピーチに関しては、今年も市教委より1名のALTを派遣してもらいました。

他は小樽商大の留学生で、ベトナムとスペインの女子学生がいずれも自国の紹介を中心とした内容で英語のスピーチをしてくれました。

また、ユネスコについて世界寺子屋運動などを映像を使って紹介しました。

次年度は第40回という節目にあたりますので、種目や内容をより充実したものにするべく準備をしていきたいと考えております。

世界中の人々と相互理解を深めるため、コミュニケーションのツールとしての英語に親しむ人が増えてくれることを願って！

第39回小樽ユネスコ英語祭 入賞者

賞名	部門	氏名	学校・学年
小樽ユネスコ会長賞	対話・劇	愈敬華	稲穂小4年
小樽市長賞	暗唱	菊池志歩	松ヶ枝中3年
小樽市教育長賞	対話・劇	田中日香里	菁園中3年
北海道新聞社賞	朗読	井上倫	稲穂小3年
国際ソロプチミスト小樽会長賞	暗唱	長沢萌	松ヶ枝中3年
小杉八千代賞	歌	奥村木歩	銭函中3年
STV賞	暗唱	小澤友里	古平中3年
努力賞	スピーチ	佐藤百花	銭函中2年
努力賞	暗唱	二村桃子	望洋台中2年
努力賞	対話・劇	赤石、小野寺、上出、中山	黒松内中2・3年



継続は力、年々充実、カレンダーリサイクル市

環境委員長 丸田孝子

小樽ユネスコ・カレンダーリサイクル市は、今回も多くのおみなさまのご協力と、お買い上げのご支援をいただき、無事終了、「継続すること」の大切さを実感しています。

4回目を数えた今回、1月11日・12日に行われた小樽市総合福祉センターには、去年の倍以上の100名を超える方が足を運んで下さいました。

一方、11日・12日に行われた長崎屋の公共プラザ会場では、このカレンダーリサイクル市を「待っていた」という方が大勢いらして、私たちも活

動への力をいただきました。

この長崎屋会場は、長机4本しか並べられないのですが、フックに下げたり、針金のハンガーに吊るすなど工夫を凝らしました。スペースさえあれば、いくらでもカレンダーはあるのですから。

カレンダーや手帳などを提供して下さった協賛企業では、ボランティア活動用にと段ボール箱で何個も提供して下さっております。

これらのカレンダー類を、小樽ユネスコではこれまでの実績やスペースを考慮して札幌ユネスコの事業後に分けてもらい、小樽の方々に活用していただいております。年々その数量、質ともに充実してきておりますので、「必ずお気に入りのものが見つかるはず」と確信を持って、ユネスコ会員一同カレンダーリサイクル市に取り組んでおります。

どうぞ来年もまたご期待ください。

なお、残った分は数か所の施設へお届けして、活用していただいていることを申し添えます。

カレンダーリサイクル市に参加して

会計担当理事 佐藤節子

小樽市総合福祉センターでの2日間、初めてのお手伝いで勝手がわからず少し不安な気持ちで参加いたしました。

1日目は開場時間の15分位前からお客さんがいらして、「昨年遅く来たら、自分の欲しいのがなかったので、今年は早く来た」とのこと、毎年来てくれるなんて有難く初日のスタートからたくさんの人に買ってもらえそうな思いにさせられました。

大小さまざまなカレンダー、綺麗なのや、かわいいのやたくさん種類があり、値段も100円200円と格安なので、1部でも多く売れるようにと願いながらご希望を伺ったり、良いものをおすすめしたりして販売活動をしました。

来場者は町内会館用のカレンダー選びだとか、遠くからでも見やすいように大きな文字をとか、それぞれいろんな目的をもってカレンダーを探しており「あんまり安いから、おつりは寄付するわ」という人もいて、嬉しい気持ちにさせられました。

私は勤務の関係で昨年までお手伝いができず、今年初めての参加でしたが、こんなに大変だったなんて、今までお手伝いできなかったことを申し訳なく思いました。

そしてもっとたくさんのユネスコ会員の協力がほしいと切に思いました。

今回はさらに多くの会員の協力を得て、コーアクション活動ができることを願っています。

又、前日の札幌からの搬入作業や、小樽での販売にご協力いただいた小樽ボランティア活動連絡協議会の有志のみなさまには、大変力強いご支援をいただきましたことを付記し、収益金の全額を、ユネスコ世界寺子屋運動、東日本大震災ユネスコ子ども基金への継続募金として、又小樽図書館ユネスコ世界文庫への図書寄贈として使用させていただいたことをご報告させていただきます。



高島小学校 ユネスコスクールに!

市立高島小学校が、小樽市では初のユネスコスクールに認定され、7月25日(木)、同小体育館にて、全校生徒の見守る中、小樽ユネスコ協会丸田会長より認証プレートが生徒会長に手渡されました。



ユネスコスクールには、1953年にスタートしたUNESCO Associated Schools Project の概念を引き継ぐ持続発展教育(ESD)の推進拠点校の役割が期待されています。

ESDは「Education for Sustainable Development」の頭文字をとったもので、日本では最近「持続発展教育」と訳されています。

ESDは、社会的課題の解決に積極的に取り組みながら、継続的に発展していける社会を担う人材の育成を目的としており、その背景には、「このままでは地球や社会がもたないかも知れない」という危機意識があります。

高島小では、今後、3年生からの総合的な学習の時間(高島タイム)において、身近な自分達の住む地域を知ることから始め、さらに地域の歴史や未来についても学び、それらを更に地域遺産や環境を守る取り組みに発展させる内容で、ユネスコスクールとしての実践が進められるとのことです。

小樽ユネスコ協会としても、今後大いに応援していきたいですし、又、市内にユネスコスクールが増えていくような取り組みに力を尽くしていかなくてはなりません。

市立小樽図書館 ユネスコ世界文庫

1月に実施したコーアクション「ユネスコカレンダーリサイクル市」の収益金から、今年も2万円相当の新刊図書10冊(世界に視野を広げることに役立つ図書を選定)を寄贈することができました。

昭和49年開設当初は、会員の蔵書の持ち寄りが多かったようですが、現在まで継続された寄贈図書の累計は、1766冊となりました。

書架としてまとまってはいませんが、「ユネスコ世界文庫」の押印のある図書がたくさんあります。大いに活用されることを期待しています。

寄贈図書一覧

- ▽おしゃべり科学 ひと晩で理系になれる最先端科学講義集
- ▽人間関係は自分を大事にする、から始めよう
- ▽限界に挑む!「測定方法と原理」のはなし
- ▽日口現場史 北方領土~終わらない戦後
- ▽ネルソン・マンデラ 私自身との対話
- ▽細胞「私」をつくる60兆個の力
- ▽自分の仕事をつくる旅
- ▽1417年、その1冊がすべてを変えた
- ▽英傑60人に学ぶ先見力
- ▽人とモメない心理学



あなたもユネスコの仲間

◎ユネスコ活動って?

第2次大戦終結後、国連にUNESCOが設立され、善良な隣人として互いに平和な生活ができる世界をつくるため努力しようと「ユネスコ憲章」が定められました。

その理念や精神に共鳴した人々によって、1947年、世界に先がけて仙台から発信されたのが、市民の立場でUNESCOを支援していこうという民間ユネスコ運動です。

民間ユネスコ団体は、100ヶ国に約4,000あり、現在、日本国内には282協会、道内には19のユネスコ協会があります。

◎小樽ユネスコ協会

北海道では、1948年に札幌で、翌49年に小樽ユネスコ協会が道内2番目に発足しました。以来、全国のユネスコ協会と力を合わせて世界寺

子屋運動や東日本大震災子ども基金の継続的な支援に協力し、英語教育やコミュニケーションの分野にも力を入れて取り組んでいます。

◎書き損じハガキ…は何の役に立ってるの?

民間ユネスコの主要な活動である世界寺子屋運動支援のため、書き損じハガキや未使用テレカを寄付していただき、企業の協力で現金化して寺子屋の建設や学用品の購入、大人の職業訓練などに使われます。

通年回収しています。ご協力をお願い致します!

◎いつでも入会できます。

・年会費 4,000円(正会員) 5,000円(維持会員) 10,000円(賛助会員)

・ホームページ <http://www.unesco.or.jp/otaru/>

・e-mail otaru@unesco.or.jp

・問い合わせは TEL 54-2075 安達

大会参加報告

◇第47回北海道ユネスコ大会in帯広

(2013北海道ブロックユネスコ活動研究会)

◇日時及び会場

とかちプラザレインボーホール、ホテル大平原

◇テーマ

星に問う「地球はお元気ですか！」

先人から受け継いだこの大地を次世代へ道東帯広での開催、北海道各地から100名を越す参加者が集い、地球に生きる我々が未来を見据えて、それぞれ出来ることを考えながら、大会テーマを反芻した2日間だったのではないだろうか。

〈1日目〉

基調講演「循環型地域社会をめざして」

講師 (株)エコERC代表取締役 為 廣 正 彦 氏

基調講演に引き続き、講師為廣氏と東日本高速道路(株)帯広管理事務所長 樽井氏、十勝バス(株)旅客事業本部長 長澤氏を交えたフォーラムが行われ、持続する地域社会を構築するために、廃食用油からバイオディーゼル燃料(BDF)を作る資源リサイクルに取り組んでいること、作る側、活用する側、回収の仕組みの循環を確立して地道な活動をしているという報告は、大変興味深かった。

限りある資源をいかに未来に繋げるか、私達は、自ら出来ることを行動に移していかなければならない時に到っていると強く思った。



ライブアート完成！

〈2日目〉

帯広星槎高校生によるライブアートの実演と道教育大釧路校ユネスコクラブの実践報告から始まった。特に、ステージ上で繰り広げられ完成した巨大な絵画は、地球生物の共生や宇宙を表している本大会のテーマに沿うものであり、大きな拍手に包まれた。

また、その後の記念講演「十勝平野と縄文文化」(とかち縄文の会会長 砂川敏文氏)では、約1万年続いたといわれる縄文文化について、気象状況の変遷など地球の歴史を含めて多面的に学ぶことができた。

人類が地球上の頂点にあるかの如く思い上がった現在を正し、「人間は自然の一部」という縄文人のメンタリティーをもって未来を生きることの意味を伝えてくれたように思う。

日々の暮らしの中で感じていることと深いところで共感した2日間であった。(文責 安達久美子)
(小樽ユ協参加者 丸田会長・吉田副会長・安達)

あとかぎ

2013年、日本最高峰・秀麗な富士山がユネスコ世界文化遺産に登録されました。

自然遺産ではなく、なぜ文化遺産に？

その荘厳で崇高な姿が古代より“信仰”の対象となり、日本文化に深い影響を与えてきたという普遍的価値が評価されたのだそうです。

そして「和食」も文化遺産に！

私達が未来に大切に引き継いでいかなければならない自然や文化が身の周りにまだまだあるかも知れません。それらを台無しにするようなモンスターを可能な限り排除しなければ…

ひとりの力は小さくとも、力を合わせれば大きなパワーに!!

今回から体裁を横書きに改めました。ご感想・ご意見をお寄せ下さい。

広報委員 田澤真弓・安達久美子

ユネスコ世界寺子屋運動

戦争や貧困など、さまざまな理由で教育の機会に恵まれない人たちのために**学びの場＝寺子屋**を世界に広げていく、草の根運動です。

書き損じハガキなどによる募金で、これまで寺子屋で学んだ人は、約128万人に広がっています。

2013年度、全国から約108万枚の書き損じハガキが集められアフガニスタンに1校、カンボジアに2校の寺子屋が建設されました。

それでも世界の中で、学校に行けない子ども達は5700万人、非識字の大人は7億7350万人といわれ、ユネスコでは支援の輪を広げていく活動を続けています。

誰もが参加できる国際協力

会報「小樽ゆねすこ」第28号
2014年3月31日発行

小樽ユネスコ協会

事務局 小樽市花園5-10-1
小樽市教育委員会 生涯学習課内